

「ボローニャ・プロセス - 欧州の高等教育の水準を高める - 」

ヨーロッパ、2010年秋号 駐日欧州連合代表部刊を読む

1. 欧州統一の資格制度を整備

- (1) 欧州には国によってさまざまな高等教育制度が存在していた。ボローニャ・プロセスは、それを、学士課程 修士課程 博士課程という国際的基準に沿った、3つのサイクルからなる枠組み制度に整備する。それぞれのサイクルで得られた資格が国内だけではなく、他の国々でも承認されれば、ボローニャ・プロセスの大きな目標である人の移動が大きく前進する。第1サイクル修了後に授与された学位が、どの参加国でも承認され、どの国の第2サイクルにも進めるだけでなく、欧州労働市場においても統一した資格と見なされるようにするのだ。
- (2) そのためには、各サイクルにおいて学習者が何を知り、何を理解し、何ができるようになればある資格を得ることができるかを明示した「学習成果」を基礎にしながら、資格に関する欧州統一の枠組みを構築し、その枠組みに各国内の資格枠組みを合致させる必要がある。2005年、各国の教育担当閣僚が参加した会合で、欧州高等教育の資格について3サイクルの枠組みが採択され、各国がこれに国内資格の枠組みを合わせることで合意した。加えて、教育や奨学金制度の質を保証するための基準とガイドライン1も採択された。
- (3) さらに獲得した資格を他国や他の教育制度で認定される手段として、欧州単位互換・累積制度(ECTS)と、資格を平易に説明するディプロマ・サプリメント(学位付属書)が導入された。
- (4) また、外国の大学と協働して、学位を自国と他国で同時に取得できるようにする共同学位制度も導入された。
- (5) 欧州の5,600以上の高等教育機関が、国内の学生および留学生に対して、多言語・多国籍環境で学べる多彩な教育プログラムを提供している。留学は学術的・文化的意義だけでなく、ネットワークの拡大、異文化に対する寛容性の増加、グローバルに活躍する市民の育成など多くの恩恵をもたらす。その支援のために、「エラスムス計画」と「エラスムス・ムンドゥス計画」2という欧州交流プログラムが用意されている。

2. ボローニャ・プロセスの課題

- (1) ボローニャ・プロセスは、欧州レベルにおいてこれまでできたため、まだ、不十分な点がいくつか見られる。学位システムに関して言えば、国内での資格の枠組み、学習成果、および ECTS の一体化はまだ十分ではない。これまでのところ、資格の国内の枠組みが完全に設定されて自国認定されているのは 7 カ国にすぎない。
- (2) 現在、経済環境は急速に変化しており、労働市場に多大な影響を与えている。各国は、卒業生の雇用可能性(employability)を将来的に追跡するシステムを緊急に構築する必要がある。また、雇用可能性を高めるには、学習内容だけでなく、就職斡旋や研修の制度も統一化し、求職者に対し十分に支援する必要がある。また、統一の制度を構築する際には、企業や学生といったステークホルダー(利害関係者)をきちんと参加させなければならない。残念ながら、労働市場において学士号がどう受け入れられるのかは、各国によって大きく異なる。
- (3) 生涯学習は、2001 年以來、欧州高等教育圏の重要な要素として認識されているが、社会的次元を強化するには非公式の学習を含む既修得学習(prior learning)の認定を改善する必要がある。また、これまで高等教育へ進む人が少なかったグループの参加を促進し、労働力の技能水準を向上させるためには、既修得学習の認定が必要になる柔軟性のある学習方法、例えば学習者が職場と勉学の場との間を行き来でき、高等教育へのアクセスが広がるような方法を開発しなければならない。
- (4) ボローニャ・プロセス参加国の 4 分の 3 が共同学位の授与を認めるように法律を修正したが、このうち半分の国で、高等教育機関の 25%未満しか共同学位協力に参加していないと推定されている。

3. 各国との協力関係の強化

- (1) 公的な教育制度以外で行われた学習を認定する制度はまだほとんどない。また、既修得学習を認定している国はまだ一部。既修得学習の認定がすべての国で制度として導入されて初めて、生涯学習を通じて人口動態的な課題を克服できる。高等教育を修了する学生が、欧州高等教育圏内の人口の多様性を反映するようになるまでには、依然長い道のりがある。
- (2) まださまざまな課題は残っているが、ボローニャ・プロセスが欧州内外の国、団体、高等教育機関の間の協力関係を強めたことは明白である。情報、推進、認定および政策対話の各分野で非常に大きな進展が生まれている。

(3) 欧州高等教育圏の展開は、日本を含む世界の関心を高め、一連の政策課題について欧州と世界のパートナー諸国との間の協議を促している。EU 理事会は 2007 年に、欧州高等教育圏の、世界における魅力と競争力を高め、政策対話を広げ、パートナーシップに基づく協力を強化する「グローバル環境の中の欧州高等教育圏」戦略を採択した。

4. 欧州全体の目標達成に向けて

(1) 全体的に見れば、ボローニャ・プロセスは多くのことを達成し、ローカルな枠組みの中ではしばしば「タブー」とされていたような問題と課題に対処してきた。グローバルな意味では、3つのサイクルの制度と ECTS がボローニャ・プロセスの主たる成功例の中に入る。しかし、学位システムは学生の移動を促進したり、学生の雇用可能性をサポートするには十分な柔軟性がない。また学術的に有意義な移動を目指す学生にとって、外国で学んだ単位の認定が行われていないことは、留学の主要な抑止要因となっている。さらに、欧州高等教育は EU 域外国との交流を構築することで、グローバルな環境でさらに発展していくべきだ。

(2) これらに加えて、欧州高等教育の卓越した強みのひとつである、教育、研究およびイノベーション間の緊密な相互作用の確保という大学のユニークな役割を向上させるため、欧州高等教育と研究部門との結び付きを強化することも、同様に重要となろう。これを達成するために、公共投資と資金調達の必要性が認識され、次の 10 年間の優先課題に据えられている。

(3) 重要なのは、各国が、国内制度の推進に努力するよりはむしろ、欧州全体の目標や、単一教育圏、文化地域としての一体感を持つ方向に、自国の構造的変化を起こすことなのだ。

P12 ~ 13

[コメント]

欧州はその独自性を懸けてボローニャ・プロセスを活用し、高等教育機関の欧州全域の質的向上と利便性の向上を目指している。大いに学びたい。

- 2010 年 11 月 11 日 林 明夫記 -